

REXEVの取組みと 次世代スマートメーターに関する期待

Co-founder 取締役 盛次 隆宏



設立日	2019年1月23日	
会計年度	1月～12月期	
会社名	株式会社REXEV（レクシヴ） (REXEV Inc.)	
本店所在地	東京本社：東京都千代田区神田淡路町 小田原本社：神奈川県小田原市	
事業概要	・電気自動車（EV）に特化したカーシェアリング事業 ・EVシェアリング事業に必要なシステム等の開発および提供 ・エネルギーマネジメントサービス（EMS）事業 ・エネルギーリソースアグリゲーション事業 ・主に地域新電力のコンサルティングや業務委託（常駐型含む）	
資本金	2億4,500万円	
創業メンバー	代表取締役社長 Co-founder	渡部 健
	取締役 Co-founder	藤井 崇史
	取締役 Co-founder	盛次 隆宏

エネルギーの専門集団だから創ることができる EVの未来

REnewable Energy

再生可能エネルギーの普及



限界費用ゼロのエネルギー



Electric **V**ehicle (EV)

EVの普及



自動運転



人件費が限界費用ゼロに

移動限界費用ゼロ社会

持続可能な地域社会

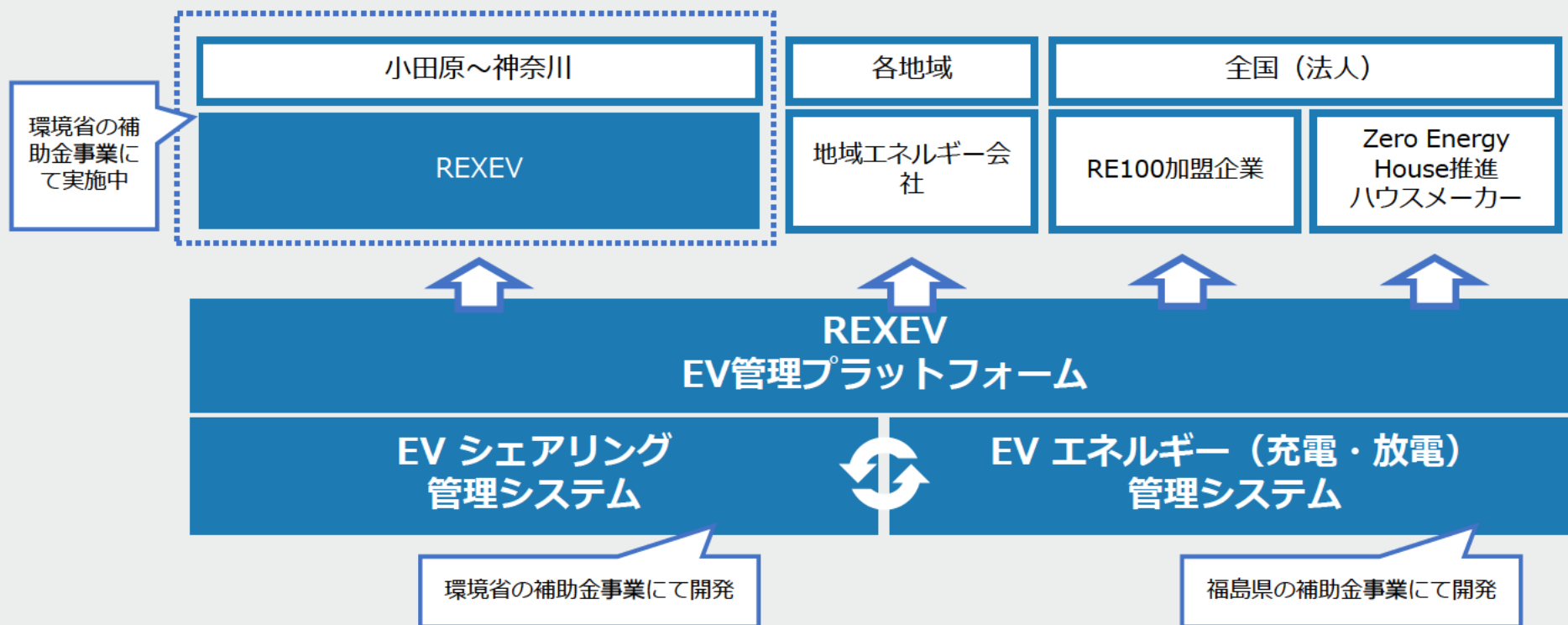
地域の課題

未来に続く豊かな地域社会を残す

事業を通じて課題を解決する

REXEVの事業

1. 小田原市をスタートポイントとした
eモビリティの①シェアリング事業 ②エネルギーマネジメント事業
2. 自治体や環境志向の高い法人向けに
③eモビリティのマネジメントプラットフォーム提供事業
3. (将来) EVx自動運転を利用した新たな地域サービス創出



小田原・箱根地域でのEVカーシェアリング事業

● 2020年6月からEVカーシェアリング「eemo」のサービス開始

eemoは小田原市、湘南電力株式会社と共同で環境省の「脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業」の採択を受け、補助を受けて実施しています。



● 防災活用

小田原市と非常時にEVを活用する防災に関する取決めを締結。



- 2020年9月時点で27台(16ステーション) 運営
- 2022年までに100台導入する予定。



ホテル・旅館



駅周辺



集合住宅



法人施設

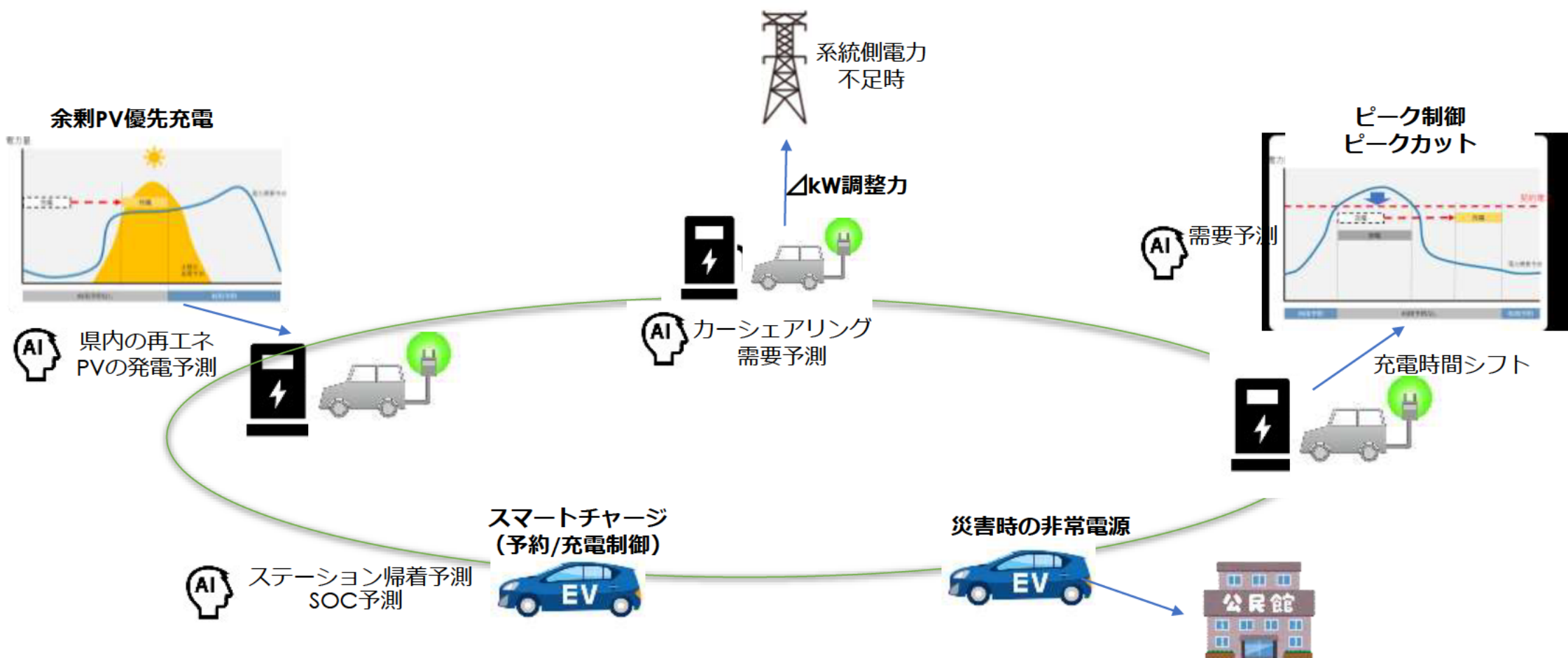


eemoアプリについて

- 車両の予約、鍵の解錠/施錠、利用料金の決済（クレジットカード）、会員情報の管理とカーシェアリングに必要な**一連の動作を全てスマートフォンアプリで完結**できます。
- 電気自動車に特化した機能として、**充電残量の管理機能や再生可能エネルギー利用率の表示機能等**を備えています。

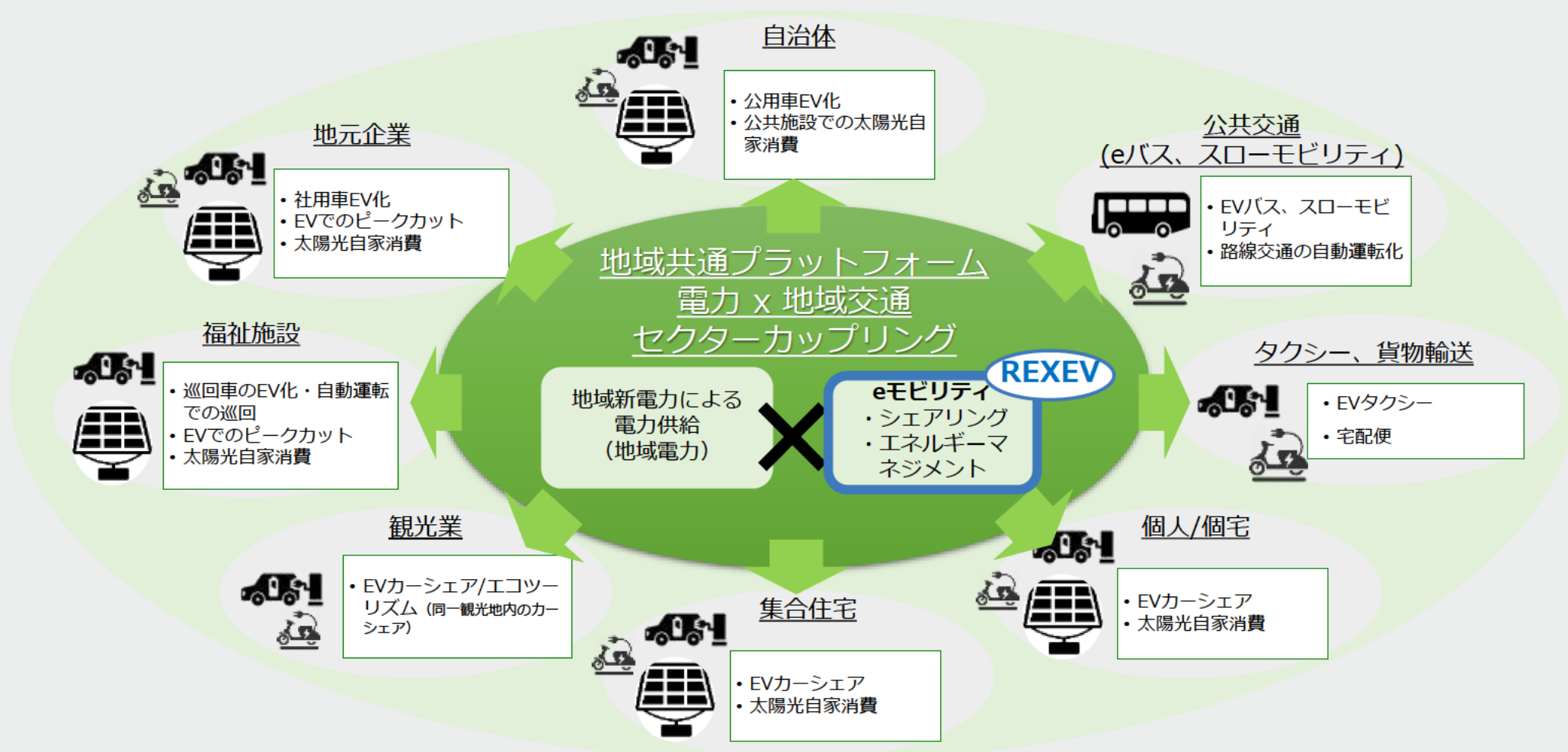


- ・カーシェアリングとエネルギーマネージメントを両立
- ・SOC予測やカーシェア需要予測を行い、V2G、V2B、予約/充電管理、非常時の電源活用など様々なエネマネを実施



EV以外のeモビリティへの展開

今後、EVだけでなく、eバスやスローモビリティなど様々なeモビリティへ展開を行い、地域内でのeモビリティ管理のプラットフォームとして活用できるように進めていく



次世代スマートメーターに関する要望

要望		効果	実現時期
マイクログリッド制御を考慮した仕様	・マイクログリッド内での需給調整を実施する場合、マイクログリッド内でのスマメ情報を統合して制御する必要がある。 ・そのため、グリッド情報（例：変電所コード、配電線コード、区間コード）や周波数、電圧、無効電力等のマイクログリッド制御をする上で必要な情報の取得とグリッド内のデータ連携を可能にするなどの仕様の盛り込みではどうか。	・マイクログリッド内での需給調整効率化、導入促進 ・新規配電事業者の参入増加	2030年頃 (再エネ主力電源化)
周波数制御（自端制御）を考慮した仕様	・将来的にEVや蓄電池などの分散リソースを活用した周波数制御のニーズが高まることを考慮して、周波数に関する情報も取得できるようにしてはどうか。 ・また、計測粒度に関してもmsレベルでの計測が必要になるため現状からの見直しが必要	周波数制御にEVなどの分散リソースを有効活用できるようになる。	2024年度頃 (需給調整市場の本格化)
無効電力制御を考慮した仕様	・将来的に無効電力制御のニーズが高まることを考慮して、無効電力に関する情報も取得できるようにしてはどうか。	無効電力制御にEVなどの分散リソースを有効活用できるようになる。	2030年頃 (再エネ主力電源化)
充電器での機器別計測を考慮した仕様	・EVをリソースとしてVPPやDRを行う場合、機器別計測や差分計測の必要性について議論がされているが、そうなった場合を想定して、スマメと機器との連携が可能な仕様としてはどうか。	EVなどの分散リソースをVPPやDRに活用できる機会の増加	2024年度頃 (需給調整市場の本格化)

次世代スマートメーターに関する要望

要望	効果	実現時期
高圧スマメBルートの遠隔通信対応	需要家内の電力情報のNW化コスト削減によるEV制御等をするためのスマート機器の導入促進	2024年度頃 (需給調整市場の本格化)
高圧スマメのEthernet接続対応機種種の普及	需要家内の電力情報のNW化コスト削減によるEV制御等をするためのスマート機器の導入促進	2024年度頃 (需給調整市場の本格化)



REXEV